

「生きて働く力」を育てる生活単元学習の指導

1 生活単元学習に対する中学部の基本的立場

生活単元学習は、教科・領域を合科統合し、生徒の具体生活の中で再構成し、生活経験の深化拡大をめざすものである。その学習内容は、小学部では個の確立、高等部では職業自立をめざすものであり、中学部では、その中間に位置し、個の確立を社会化の方向で深め、職業自立に向けて、しごとを多く取り入れ、「生きて働く力」の定着をはかろうとするものである。

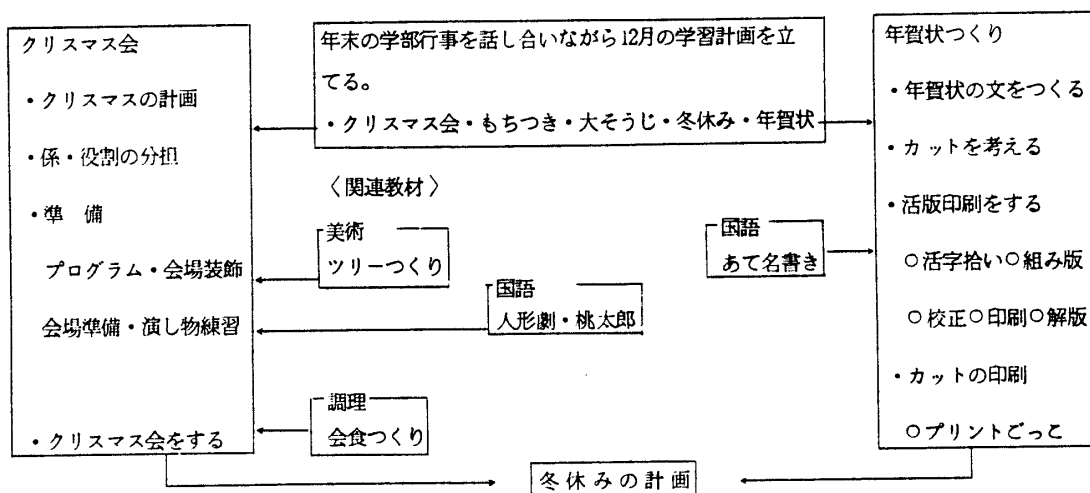
特に中3では、次の2点を単元構成の基本的立場とした。

- (1) しごととの取り組みを多くし、体を動かしながら考える学習を多くすること。
- (2) 協力して、最後までこつこつ取り組める内容を工夫すること。

2 実践例 生活単元「年末のくらし」から

12月の生活で、最も興味・関心をもって取り組むことが予想され、しかも家庭生活と結びついていると思われるものに、クリスマスと年賀状がある。以下、年賀状学習を中心に述べてみる。

(1) 指導計画 ※ 関係部分を中心に抜粋



(2) 印刷による年賀状づくりの動機

年賀状と関係のある学習は、次に示すように年間を通して比較的学習する機会が多い。

- ① 案内状を書く。(運動会・学習発表会・卒業生を送る会など)
- ② 礼状を書く。(臨海学校・大山林間学校・修学旅行・職場見学など)

しかし、文の構成に苦勞し、同じ文で何枚も手書きするのは抵抗が大きい。昨年手書きの年賀状を家庭まで持ち込んで取り組んだM・Kの母親は、20枚程に悪戦苦闘した様子を語られ、「今年は印刷で。」と注文された。そこで今年は、印刷による年賀状づくりを計画した。

(3) 3人の生徒の印刷との取り組みと反応

- ① M・Kの場合 文の構成に時間がかかった。カットは家で考えてきたと得意だった。「自

分の年賀状は自分で印刷する。」ことを告げたとき、一番目を輝かした。活字拾いから教師の援助を受けながら時間をかけて、ほとんど自分の手で20枚刷りあげた。翌日、家庭から20枚の申込みがあった。Mは教師の援助で自信満々の取り組みをみせた。あて名書きは、家庭学習になったが、夜遅くまでこつこつと取り組み、昨年とは大違いだと母親を驚かせた。

② H・Tの場合 Tは、昨年活版印刷と取り組んだ経験がある。ひとりでどんどん作業内容をこなした。印刷が終わると「あて名を家で書いてくる。」というので、年賀状の送り先をノートに書いてくるように言った。宿題を出してもほとんどやっけてこないTが、この時はノートにきちんと書いてきた。

新学期に入り、学級あてにきていた年賀状を紹介すると、早速「お礼状を書こう」と言いだした。これが新学期最初の中3での学習になった。

③ S・Tの場合 T子は活字拾いの経験はあるが、印刷機の使用ははじめてである。T子ははじめての取り組みで、いつも不安を示し学習に取り組もうとしない。今度もそうだと思ったが、印刷機の年賀状の活字拾い位置に進んで行き年賀状をセットしようという気持ちを現わした。T子の年賀状も自分の手でりっぱに刷りあげることができた。



年賀状づくり、印刷作業宿泊実習、もうすぐ卒業の学習に対する取り組み姿勢は次の通りだった。

生徒名	年賀状づくり				印刷作業宿泊実習			もうすぐ卒業						
	文づくり	活字拾い	カット印刷	あて名書き	文づくり	活字拾い	紙折り	思い出の掲示	卒業記念品(額縁)づくり			卒業生を送る会		
									デザイン	切りぬき	色ぬり	組み立て	搬し物準備	当日
K・M	△	○	◎	◎	○	◎	○	◎	○	◎	◎	○	◎	◎
H・T	○	○	○	◎	○	○	◎	○	○	◎	◎	◎	○	◎
S・T	◎	○	○	◎	◎	○	◎	○	○	○	○	◎	○	◎

(あまり意欲的でない△ 意欲的○ 余暇時間も行うほど意欲的(◎))

3 考察

年賀状づくりを通して、子供たちに意欲的な姿勢をみたが、それは次のことが原因と思う。

- (1) 関心の深い題材を選び、作業内容を多く取り入れたこと。
- (2) 身近なこと、以前行ったことのある題材でよく知っていて見通しがもてたこと。
- (3) 協力して作り上げることができる内容であったこと。

しかし、そのことが刺激になって、ただちに日常生活の中で「生きて働く力」となり、たくましい行動として発揮されるかと言うと、そう簡単にいくものではない。教師の指示がないと行動しないという傾向は、依然残っている。ただ私たちは、性急な反応を期待せずくり返しの指導の中で、たくましく生きる子の成長を期待したいのである。(田中将歳)